

# 第32号

発行  
北九州地区  
信徒徒職協議会  
会長 迫立泰治  
編集  
北九州信徒協広報部  
担当司祭 山元眞  
担当委員 岩本光弘

カトリック  
北九州地区  
**信徒協だより**  
News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

## 主な内容

- 1面 大槌ベースからの報告
- 2面 教区信徒協研修会
- 3面 沖縄で見えてきたこと  
山元神父レポート
- 4面 English Column
- 5面 司祭紹介  
共同回心式
- 6面 ACOの日韓交流  
ニュースあれこれ

## カリタス大槌ベースからの報告

長崎教会管区東日本大震災復興支援

古木眞理一神父

大震災から1年8か月。長崎教会管区ベースカリタス大槌ベース開所式(12月13日)から1年を迎えます。これまでのボランティア活動における参加登録者は727人、延べ人数4603人(10月末現在)に達しました。九州をはじめ、全国からの多くのボランティアに感謝いたします。町内の仮設住民への活動、小規模企業への支援活動も要請により行っていますが、活動後のふりかえり、「分かち合い」も行い、相互によりき出合いの場に。現地被災動画やスライドショーなど震災研修の場にもなっています。若者から高齢者まで参加可能なベースはいつも家族的雰囲気大切にしています。



私たちの活動は岩手県沿岸部にある大槌町。人口1万2千人。産業は振るわず、少子高齢、過疎化していくこと

ろへ被災し、死者802人、行方不明者505人、救出23人、避難者6000人、浸水率52%は県内最大。全半壊3717棟。仮設48か所：2千世帯。仮設住居者4769人。町外在住者を含め現在1万人弱。町長はじめ役場の課長クラスの方々が死亡し、種々の難関に復興も遅れるという状況にありました。県内外からの支援により立派な復興計画ができましたが、種々の難問に足踏み状態にある気がします。

今回の東日本大震災の被災はあまりにも悲惨でした。死者は地震、津波、火災によるものがあり、そして避難後の悲しい自死によるものがあります。震災を受け、惨状を体験したのにとっては息ができなくなるほどに苦しく、つらいものです。愛する家族を亡くし、よき友人を亡くし、家や財産を亡くしたものとってはさらに大きく、深く、癒えることはないのです。助かった命を亡くすほどです。「お前のいのちは俺たちのもの、家族のものだろうが、なぜなんだ」「一緒にがんばって、やっべしでねかったかあ」自死した知人の友人たちと手紙を握りしめ駆けつけ、亡骸にしがみつき泣き苦しむ友人の言葉です。

**谷司教が来ます**  
日本キリスト教団で講演  
『今なぜ信教の自由か』  
2月11日(月)  
時間は未定  
日本キリスト教団  
小倉東篠崎教会  
小倉北区東篠崎1-2-3

復興都市計画、被災のない新しい町作りを目指すものの被災者居住地の代替え地や地権者との交渉もままならず、諸難問に歩を進めることができない現状にいます。繁栄していた街は土台だけを残し、大きながれきは集められ分別が行われてはいるものの、処理先も見つからず港や海岸沿いにボタ山のように高く積み上げられた様に、復興は程遠く感じます。

商業、農業、漁業、林業はわずかスタート台にあり、建設業種のみが活気に満ちています。町中を勢いよく走るダンプカーは通るたびに埃を巻き起こしていく。アスファルト道は凹み、田舎の道も真っ

(二面へ続く)

白になってしまいました。仕方がないとはいえ乱暴な復興工程に思えます。災害復興支援は地域の枠を超え、同じ日本人として自分のこととして求めや必要に應えることだと思います。ボランティアは参加動機がどうであれ、個人として団体として何か役に立ちたい応援したいものの集まりだと思ふのです。だが善意の押し売りではないけない。したいことをする自己満足でもない。主体である選手は町の方々であつて我々は応援団に過ぎない。ヒーローになることではないのです。

ボランティア活動は弱い者環境に置かれていられるのが優い立つてやっペし」という元氣者をバックアップしていく役割も同時に必要であると思ふいます。

人間が幸せに生きていく上に必要な人と場所の環境、郷土愛観光や中小企業における町の経済力向上、町興しにはよきリーダーが求められます。われわれはこの地に明かりを灯し住むことから活動を始めました。それは地域の方々

大切にされるものを大切に、愛するものを愛することでした。人間中心を主体に暗闇に明かりを灯し、人々に晴れやかな輝きを子供たちに夢を期待し、そのアシストを応援するため、その地に住み、地域の人々が大切にされるものを大切に、愛するものを愛することを心にボランティアの皆さんと活動してきました。

ボランティアは無償の奉仕であり、それはこれまで大槌町社協と連携し、外部作業やイベントの支援などを行い、仮設（48仮設、2000世帯4600人）を中心に支援活動を行っています。

お茶つこを（おしゃべり喫茶）集会所や談話室のある仮設で行いますが、外にテントを張って行うこともあります。男性はなかなか出てきません。あまり触れたくないが、自死者も男性が多いのです。

被災から1年半が過ぎ登録ボランティア727名 延べ人数4000人が大槌ベースを拠点に活動してきました。福岡県からは46名が遠方より駆けつけてくださいました。有難うございました。

福岡教区信徒協

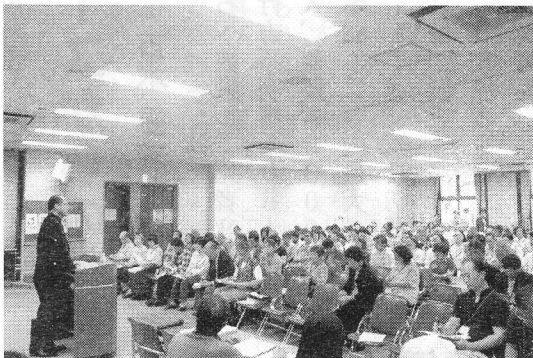
9月22日(土)大名町教会

司教団メッセージ

“いますぐ原発の廃止を”から  
キリスト者としての生き方を学ぶ

研修会記録集が  
できました！

A4サイズ44p



福岡教区信徒協では、9月22日に宮原司教を講師として、研修会を開催しました。テーマ「教会の明日を担って」

「教会の明日を担って」サ  
ブテーマは「原発の司教団メ  
ッセージからキリスト者の生  
き方を学ぶ」です。その研修  
会記録集がこのほどでき上が  
り、11月いっぱいを目処に各  
地区の小教区、修道会と研修  
に参加された皆さんへ配布し  
ています。教区信徒協では、  
記録集を読んでみたいと希望  
される方にも差し上げること  
にしています。それぞれの信  
徒協担当者まで連絡して下さ  
い。（一部300円⇨コピー  
代相当。送料別途）

◆◆◆  
〔研修会記録―その内容は〕

◎宮原司教講演

「今回のテーマは、まさに  
信仰年へ入っていく、その心  
構え、姿勢を明確にするとい  
う意味でも、非常に意味のあ  
ることだと思います。」と挨拶  
され、①この司教団メッセ  
ージが出された背景 ②福島  
第一原発事故から見えてきた  
課題 ③司教団メッセージの  
内容の3点を大変分かりや  
すく話しています。

◎午前の分かち合い

16グループに分かれ、分か  
ち合いが行われ、その記録が  
まとめられています。

・社会と共に歩む教会の方向  
性が司教様から聞けてうれし  
かった。

・司教団メッセージを理解し  
なければ。

◎DVD視聴と体験発表

午後はDVD視聴「福島か  
らあなたへ」から始まり、続  
いて2人の体験発表。

・DVDは祈りでもあった。  
・発表を聞き、私たちに何が  
できるかを考えた。

◎全体会の様子

全体会でも12人の方が率直  
な意見や質問が出されました。  
・もつと司祭の参加を。

・学んだことを小教区で伝え  
たい。

・信徒に対し、具体的に何を  
望まれていますか。また、メ  
ッセージをもつと社会にアピ  
ールする必要があるのでは。

◎感想や意見

参加された方々から100を超  
す感想や意見が寄せられました。  
希望に満ちた声が多数あ  
ります。その全てを掲載。

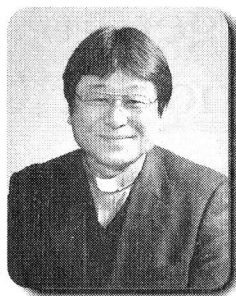
◆◆◆

# 「自己虫」の塊

かたまり

## 沖繩で見えてきたこと

小倉教会主任司祭 山元 眞神父



ずっと以前から沖繩に行く機会を探していたが、10月はじめに3泊4日で行くことができた。

初日は夕方に着いたので、夜は地元の食堂でいろいろと話しを聞いた。翌日、知人から紹介してもらってガイドの方に9時から19時まで、北は嘉手納基地から南端まで案内してもらった。翌日は一人で普天間基地の移転先の候補地である辺野古(キャンプシュワブ)まで行き、南下しながら米軍のキャンプ地をいくつかに見て回った。キャンプハンセン、ブルービーチ、キャ

ンプフォスター、キャンプキンザー、嘉手納基地、普天間基地：前日訪れた平和祈念公園に再び行き、ゆっくりと資料館を見た。最終日は昼まで時間があつたので再び普天間基地が見える丘に行き、オスプレイの発着の様子を見ることもできた。

東日本大震災の時もそうであつたが、「現場」に行かないとわからないことがたくさんある。あの時は震災の1か月後に被災地を訪れた。「現場」に行けば気づき、感じるものがたくさんある。見る、嗅ぐ、そして現地の人と話す。今回の初めての沖繩訪問でも気づかされたことがたくさんあつた。やはり「その場」に身を置き「その場」の空気に触れ、その場の人と話すことが大事だと改めて思った。

ガイドの方から「基本的なこと」を聞きながら頭の中には常に次のような言葉がグルグルと回っていた。

沖繩、基地、戦争、沖繩戦、沖繩の人たち、安保、返還(平和)憲法、現地、琉球処分、しわ寄せ、活動家、住民、雰囲気、原発、福島再稼働、放射能、政治、経済(優先主義)、戦争は作られる、(民族)紛争、差別、反日運動、尖閣諸島、竹島いじめ、自死、歴史、真実、嘘、捏造...

今、世界にはさまざまなお問題、課題が山積している。その多くは今に始まったことではない。いろんな意味で「引きずって来た」問題であり、課題である。これらすべての問題に一人で関わることはできない。

多くの人たちが、さまざまなお問題にかかわっている。反対を叫び、デモをしている。直面している問題の解決は難しい。「反対」と叫ぶことはできる。デモに参加することもできる。実際、沖繩ではそうだった。でも、それはしなかった。

沖繩戦時の激戦地で普天間基地が見える嘉数高台に登っても、嘉手納基地が見える「安保の丘」に登っても、すぐく冷静で「さめた」自分に気づけた言葉が駆け巡る。

嘉手納基地を観ながら思う。実家が航空自衛隊築城基地のすぐ近くなので小さい頃からヒコキを見ては「カッコいい」と思っていたし、時にはパイロットも夢見ていた。が、今は違う。あれは兵器なのだ。戦争の道具で、人を殺すものなのだ。と。見えるもの、この見えるもの先には何があるのか。



キャンプハンセン(筆者撮影)

今、見えるこの先には何があるのか。糸を手繰っていく...

「心で見なくちゃ、ものごととはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」。フランスの作家サン・テグジュペリの「星の王子さま」に出て来る星の王子さまの言葉。これを彼は何度も繰り返す。「かんじんなこと」と訳されている言葉は原語では「レサンスイエル」、つまり、「エッセンス＝本質的なこと、非常に大切なこと」の意味。このことはガイドの方が縮くくりとしてファイイルの中の「星の王子さま」の絵を見せながら教えてくれたことでもあった。

その先に見えるもの：なかなか見えない。だが「本質」が見える前に嘘の空気の中で飛び回る「自己虫」がいつぱい見える。

頭の中でグルグル回る言葉：そのそれぞれの言葉には自己中心・エゴの塊から成る「自己虫」がビッシリとくっ付いている。

当面の敵はこの「自己虫」なのではないか。



## Don't forget to bring Certificate of Alien Registration or Card, if you go out.

Do you know Registration Act of Japan was renewed, at July 9<sup>th</sup>? There is a large change, since 60 years ago. The Act, that is used since now, is repealed (ceased), besides, Certificate of alien registration (paper type) is changed to Foreigner's Residence Card. With the new act, you must exchange the Certificate of Alien Registration to the Foreigner's Residence Card, however, you may not hurry it; you may exchange it, within three years.

Here, I STRONGLY NOTICE you that you must not go out of home without Certificate of Alien Registration, or the Foreigner's Res-

idence Card.

The situation is similar before now, however, police office become sensitive for it, just after the act is changed.

If you met a policeman in a town, and you are said to show a Certificate of Alien Registration (or Card), then you may be arrested if you do not hold it. Actually, in Tokyo, a policeman came into a church and caught a Philippine. In this case, Catholic church protested to Japanese government, then government apologized and he was released. However, it cannot be said that what happens outside of church.

### 外出の時は外国人登録証を忘れないように

7月9日に入国管理法が施行されたことはご存知でしょうか。今回の改定は60年ぶりの大改訂でした。今までの外国人登録法が廃止になり、外国人登録証が在留カードに変更になります。この法律により、みなさんが持っている外国人登録証を3年以内に在留カードに取り換えることになります。

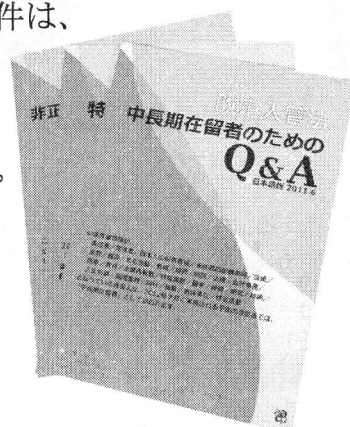
しかし3年以内は今の外国人登録証は有効です。だから皆さんはあわてることはありません。3年以内に在留カードに取り換えたらいいのです。

そこで、みなさんが絶対に注意して欲しいことがあります。それは、外出するときに外国人登録証か在留カードを持たないで外出してはいけないということです。

これは今までも法律で決まっていることでみなさんは守ってきたとは思いますが、法律

が改定されることで、警察などが敏感になっています。

町で警察官に呼び止められ、外国人登録証を見せなさいと言われた時に持っていなかったら、警察はみなさんを捕まえます。すでに東京の方では教会の中まで警察官が入ってきて外国人登録証を忘れてきたフィリピン人を捕まえました。この件は、カトリック教会が政府に抗議しましたので政府は謝りました。しかし、教会の外ではどうなるか分かりません。絶対に注意してください。



「外国人のための改定入管法」パンフレットも活用して下さい。

在日・日合同研修会に参加して

岩本ナセ

「外国籍の人々を苦しめる入管法を知っていますか？この国で共に生きることを妨げる悪法について知ろう」の研修会タイトルを見て、在日韓国人の方々がどんな思いでおられるのかと衝撃をうけました。自分は今どの場所に立っているのか、足を踏んだ人は忘れている、弱くされ隅に追いやられている人の場所に立つことが、ナザレのイエスの生きかたではなかったかと心を向ける機会となりま

した。9月29日(土)に開催された研修会の主催は在日大韓基督教会と日本基督教団の女性部の方々です。開会礼拝に始まり次に、「日本における外国人労働者の実態と、改定入管法の問題点」と題しての話がありました。講師は「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」の岩本光弘さんで、日本における外国人労働者の実態について戦後の日本から今日までの変遷の説明、また

外国人支援団体が誕生し、全国ネットワークへとつながった経緯を話され「あなたの身近で移住労働者の困難や問題を知ったら連絡ください、適切な人へ繋ぎます」とこれまでの活動実績を踏まえた言葉にネットワークの大切さと重要性を再認識することができました。入国管理法の改定と施行の背景には2011年9月11日のニューヨークにおけるテロ事件の影響で、日本政府のテロ対策が明らかになったことが上げられ、完全管理をする方向に向かうでしょう。改定入管法の問題点はこれから具現化

司祭紹介



小倉教会  
オデイロン神父  
1974年生まれ 38歳  
韓国全州出身

『司祭談』 わたくしはカトリック小倉教会の協働司祭「オデイロン金一(キムイル)」と申します。2008年に韓国神言会の宣教司祭として叙階され、日本に派遣されました。派遣後、まず名古屋の日本神言会の南山大学で2010年5月まで2年間日本語を学びながら1年間南山カトリック教会の協働司祭、次に2012年3月までは秋田土崎カトリック教会で助任司祭として働きました。今度福岡教区に派遣されて北九州地区信徒協だよりで皆さんに挨拶することになりました。どうぞよろしく願いいたします。

『信徒談』 白いバイクにまたがりさっそうと出かけていく。無口で少し怖そうに見えて、でもその内には熱い情熱を秘めておられるようです。

ミサの前と後には必ず「許しの小部屋(告解場)」で私たちを待っておられます。子どもたちと一緒に遊ぶときは、私たちにはなかなか見せてくれない弾けんばかりの笑顔で、「子ども会」(教会学校)ではパソコンを用いて子どもたちは大喜び。釣りが好きでよく出かけられるアクティブな神父です。

「今年7月に実施された新しい制度『改定入管法』はさまざまな義務規定を刑事罰をもつて課していくことになりました。そこで外国籍の友と共に歩むために、まず知ることがからはじめます」とカトリック労働者運動(ACO アセオ)は、全国運動としてこの「改定入管法」に取り組んでいます。これは国際連帯活動すなわちWMCW(キリスト者労働者の世界運動)・東アジア会議で話し合われたことの一環でもあります。

共同回心式日程

日付	教会名	時間
12月1日(土)	田川	11:00のみ
12月4日(火)	行橋	11:00, 19:30
12月5日(水)	豊津	19:30のみ
12月5日(水)	若松	19:30のみ
12月7日(金)	小倉	10:30, 19:30
12月11日(火)	新田原	10:00, 19:00

日付	教会名	時間
12月11日(火)	戸畑	10:30, 19:30
12月12日(水)	湯川	10:30, 19:30
12月13日(木)	門司	11:00, 19:30
12月14日(金)	飯塚	10:00, 19:00
12月20日(木)	水巻	10:30, 19:30
12月21日(金)	直方	14:00, 19:30

# 交流が平和の掛け橋に

## 日本ACO カトリック労働者運動 が韓国労働者と共に

日本ACOは、10月12～14日に韓国から5人の労働者を招き、互いの生活の分かち合いとフィールドワーク(筑豊巡り)等を行い、3日間を通し笑顔と涙の行き交う集いを開催しました。



下関労働教育センターにて歌と踊りを披露

日本と韓国との政治的案件は「竹島問題」があります。同じ信仰を持ちつつも、国民としての立場から見える「領土問題」には微妙な温度差があるでしょう。10月13日の企画「筑豊を訪ねて」はその隔ての壁を取り除く大きなときでした。

筑豊といえば、かつて多くの人が朝鮮半島から強制連行により、炭鉱労働に従事させられた地です。そこで命を落とした多数の人たちを記念する石碑等があり、そこを訪れましたが「日向墓地」では全員が涙に濡れました。その訪問を通し韓国の方が「現状を見て心痛く、そんな歴史を作った日本が憎いけど、その霊を慰めようとすることに感謝です。韓国に帰って歴史を直視します。」との感想を寄せてくれました。共有できる歴史認識を持って、日本による「朝鮮半島支配」や「従軍慰安婦問題」「竹島問題」も必ず克服出来るかと実感した一日でした。(Y)



日本人墓地の合間に、ポタ石を置いただけの所がある。1974年、「この下に同胞の墓がある」と金奇東さん(故人)が案内してくれた日向墓地。

## 使徒職を果たす

瀬下幸弘

正義と平和全国集会で高見大司教は「教会は天上のことと思っている信徒がまだ多い。『なぜ教会が社会と関わるのか』を学ぶ場に」と話されました。基調講演をしたマイケル・シーゲル神父も「私たちの考える天国とは、個人と神だけの関係ではなく、すべてのものとの和解。他者どう関わっていくかが信仰生活をみる上で大切」と言われました。共通点は、信仰生活と社会生活との関係が、意識や行いの中で遊離していることを指摘していることでしょう。ところで、9月の教区信徒協研修会で宮原司教は現代世界憲章序文を読み上げました。「現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子達の喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事柄で、キリストの弟子達の心に反響を呼び起こさないものは一つもない。…人類全体に話しかけて、現代世界における

教会の現存と活動について、教会自身がどのように考えているかを、すべての人に説明したいと望むのである。」そして「これが教会の心なんです」と続けました。私たちが忘れてはならない大切な言葉です。この「教会の心」を持つて接する時「使徒職を果たす」(信徒使徒職に関する教令)と呼ばれるでしょう。

## ニュースあれこれ

### ◆年末街頭募金チラシをお届けします。

この信徒協だより32号が届く頃には、木枯らしの吹く冷たい風が流れているかも知れません。年末が間近です。今年も年末街頭募金チラシを信徒協だよりと一緒にお届け致しますので、ご活用下さい。

### ◆聴いてみてはいかが。

「なぜ教会は社会問題に関わるのか」について、幸田司教と松浦司教が語っています。ネットに出ています。「長崎正義と平和・2012年シンポジウム」などで検索すると録画と音声が出てきます。きっと役立つと思います。M

## 編集室の窓

\*4年連続で親睦レクレーション大会が中止になり、10月14日の代表者会議では、来年以降について協議しました。

高齢化も進み、体を動かすことは難しいという意見や秋分の日前後の雨天の多さにも考慮して、来年は10月14日を一応の目標にして、3月の代表者会議までに結論を出すことになりました。

\*平和の集いするとき、一番後ろの隅に見たことのある人が立っていました。もう一度後ろに戻るときに思い出しました。まさか大槌にいる古木神父がここに?? 神父の現地報告には感銘。現地で働いている人の言葉は重いものです。早速原稿を依頼し、一面掲載の報告が送られてきました。これからも皆さんの支援をお願いいたします。

\*数年ぶりに風邪をひき一週間寝込みました。力が抜けフラフラするのでミサにも行けませんでした。みんなに「鬼の霍乱だ」「あんたも普通の人だというのが分かったよ」と笑われました。(岩本)